

キャラクター名

白樺椿 詩（しろつばき うた）

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ハヌマーン		ワークス	UGN	エージェントD	カヴァー	アーティスト	
			年齢	24		性別	女性	
オプショナル								
覚醒	渴望		衝動	解放		初期侵食率	40%	
出自	親の理解		経験	空白期間		邂逅	友人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	1	0	0			1	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	2	0	0			2	戦闘移動	12
社会	4	1	0			5	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			R C	1		交渉	4	11
回避			知覚	1		意志	2	3	調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
NADA SYSTEM - 天吼	交渉	6r+15		23		2体攻撃（シーン1回）
NADA SYSTEM - 天壊轟吼	交渉	6r+15		48		2体攻撃（シーン1回）、シナリオ3回

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ボイスチェンジャー	
思い出の一品	

合計装甲：	0	合計回避：	0
-------	---	-------	---

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス消費
遺産の器：白猿の額冠	P	N	
リース・レイニア	P 好意	N 不信任	
強羅 瑠璃	P 慕情	N 劣等感	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P:	12	残り財産P:	
--------	----	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
タブレット	3	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：視界化								
多重生成	2	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果：対象+ [Lv.+1]								
活性の霧	6	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果：攻撃+ [Lv.×3]								
絶対の恐怖	5	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果：攻撃+ [Lv.]、装甲無視								
神の御言葉	5	4	メジャー	-	-	対決	-	
効果：攻撃+ [Lv.×5]、シナリオ3回								
七色の声	1	1	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：								
竹馬の友	1	-	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

詩は、かつて一般人としてアーティスト活動を行っていた。とあるソロライブに向けた練習中、レネゲイドウイルスに感染。感染直後、ウイルスの暴走によって人間の声域をはるかに下回る、制御不能の“全指向性無差別低周波”を発生させ、周囲一帯の建物を破壊させる事件を引き起こした。その後UGNに保護された詩は、本人の希望（声が低いのは普通に嫌）により、喉部および外付けのレネゲイドウイルス制御兼調声ユニット『NADA SYSTEM（ナダシステム）』を装着。これにより、可聴域外の“指向性高周波”を自在に出力する技術を身につけた。その際、強羅 瑠璃より遺産『白猿の額冠』の適性者として選定され、継承を受けたことで能力はさらに変質。同時に2方向まで、任意の位置へ“異常音圧の高強度集束超音波”を放ち、対象を内部から振動・加熱させ、構成組織を破壊する能力を発現している。また、かつてのアーティスト活動で培った技術は、この能力をさらに引き出すこととなった。詩は自身や周囲のオーヴァードの呼吸周期、筋緊張、心拍の乱れなどを捉え、それぞれの状態に応じて周波数・位相・音量を微細に調整することができ、これにより呼吸を整え、身体のリズムを最適化したり、疲労感を感じにくくしたりするなど、味方への支援も可能としている。『NADA SYSTEM』が正常に組み込まれている間、詩は感染以前を上回るほど自由自在な発声を可能としている。しかし、これを失った場合、発声可能な声域は著しく縮小し、その声は極端な低音域に限定される。そのため詩は、この調声ユニットをやや過剰なまでに大切にしている。度重なる強引な能力矯正により当人の精神性は著しく低下した為、以前のようなアーティスト活動は控え、インターネット上での活動に専念することとなった。そんな中で出会ったのがリース・レイニアだ。彼女とは行きつけの喫茶店で出会い、その時に名前を聞いた程度で、彼女のパーソナルな話に踏み入ったことがない。これはインターネットで活動する詩自身も素性を隠している身である為、詩から引いた踏み込まないラインだ。それを知ってか知らずか、2人は互いに詮索しない関係として、快く接していた。